

施工説明書

NYI412FK05

- 正しい施工をしていただくため、必ずお読みください。
- 施工後、必ず施主様に商品説明をしていただき、取扱説明書と施工説明書をお渡しください。
- 万一、施工説明書にしたがわず施工された場合の事故や故障などについては、責任を負い兼ねることがあります。
- 火災などによる損害については責任を負い兼ねますのでご了承ください。

付属品

- 施工説明書(本紙).....1枚
- 取扱説明書.....1枚
- ネジ(露出ボックス取付用)(M4×10).....2本
- ネジ(埋込ボックス取付用)(M4×40).....4本

施工上のご注意

- この商品は「屋内専用」です。屋外・屋側には設置しないでください。
- 接続機器については、その商品に付属の説明書をよくお読みください。

■次のような場所には設置しないでください。

(誤動作や故障の原因となります。)

- 直射日光の当たる場所
- 水滴、蒸気、ほこりなどがかかる場所
- 周囲に操作上支障となる障害物のある場所
- 衝撃、振動などの影響を受ける場所
- 常に人がいなくてようすを確かめられない場所

■施工時のご注意

- 電線接続部は圧着スリーブなどで行い、絶縁処理をしてください。
- 電線をよじっただけでは、長期使用中に電線表面が酸化不良をおこし、誤報の原因となります。
- 工事・施工時のゴミなどは機器の中に残さないでください。ショートや故障の原因となります。
- 接続方法に示す機器以外の機器を接続しないでください。不適切な接続は誤作動・故障の原因となります。
- 他社商品との接続は、仕様をよく確認してください。仕様が合わないと不動作や故障の原因となります。



安全上のご注意

■必ずお守りください

警告



ぬれた手で副受信機をさわったり、水をつけたり、水をかけたりしない。感電・故障の原因となります。



施工説明書にしたがい、その質量に十分耐えるように、強固に取り付ける。
安易な取り付けは脱落によりケガの原因となります。
受信機の電源(AC100V)を切り、受信機内部の電池を取りはずした状態で施工する。
活線工事は感電や発熱・故障の原因となります。

施工後の確認方法

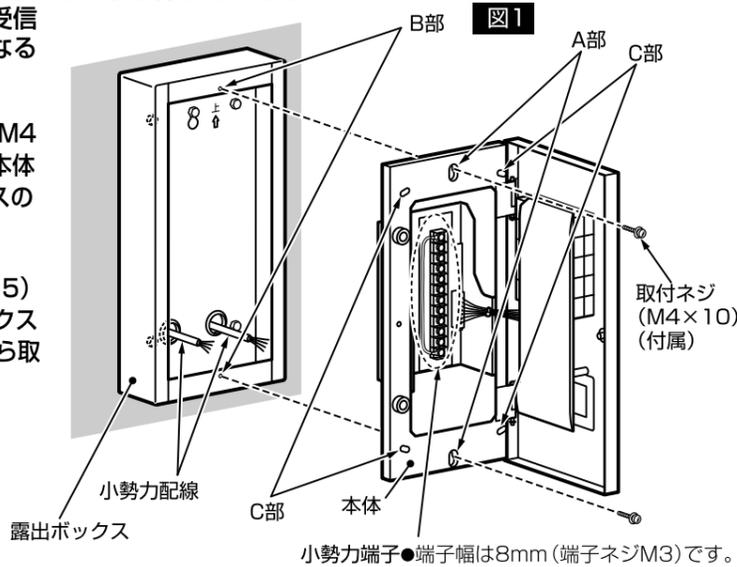
確認後は、受信機の復旧スイッチを押して、平常時の状態にしてください。
〔P型2級受信機の取扱説明書を参照ください。〕

- 副受信機の警報停止スイッチを「定位」側にしてください。
 - 受信機のL-C間を1回線ずつ短絡させ、副受信機の該当回線の点灯および警報音の鳴動を確認する。1回線確認するごとに受信機の復旧スイッチを押してから、次の回線を確認してください。
- | P型2級受信機 | 副受信機 |
|------------|---------|
| 1回線目(L1-C) | 1回線目一点灯 |
| 2回線目(L2-C) | 2回線目一点灯 |
| 3回線目(L3-C) | 3回線目一点灯 |
| 4回線目(L4-C) | 4回線目一点灯 |
| 5回線目(L5-C) | 5回線目一点灯 |

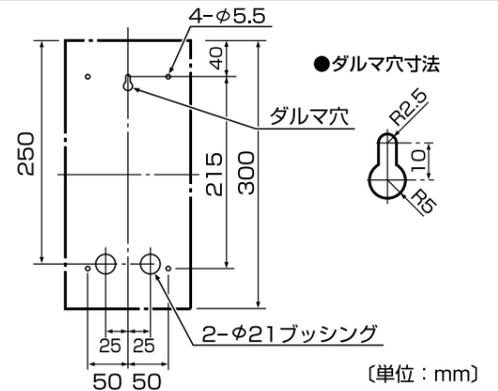
取付方法

露出取付の場合

1. 使用するブッシングを刃物などであける。
2. 取付位置を決める。
 - 中央上部のダルマ穴は露出ボックス取り付け時の位置決め用としてご利用ください。
 - 露出ボックスの底上げは9mmです。
3. 入線を行う。
4. 露出ボックスSJ型(NBY418EJH)(別売)を取り付ける。
 - 上下を間違わないよう露出ボックスSJ型(NBY418EJH)(別売)内の表示マーク(上↑)が上にくるように取り付けてください。
 - 床面に対して、垂直になるように取り付けてください。傾斜角度が大きいと副受信機の扉の開き方が悪くなる場合があります。
5. 付属の取付ネジ(上下各1カ所)(M4×10)をB部に仮止めして、本体の扉をあけ、A部を露出ボックスのB部に引っ掛けてください。
6. 本体のA部は、すべて長穴(9×15)となっていますので、露出ボックス側面に本体枠側面を合わせながら取付ネジ(2カ所)をしめる。
7. 配線する。
※「接続方法」参照。
8. 本体の扉をしめる。



取付寸法図



埋込取付の場合

1. 入線を行う。
2. JIS 5コ用スイッチボックス(カバーなし)(市販)を取り付ける。
3. 付属の取付ネジ(4カ所)(M4×40)を本体のC部に挿入し、取り付ける。

寸法図

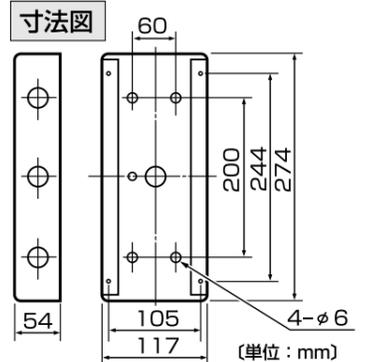


図1参照 ※その他の取付方法は、露出取付と同じです。

接続方法

副受信機を複数台接続する場合は、受信機または副受信機と並列に接続してください。ただし、総接続個数については、受信機の電源容量に注意してください。

警告



受信機の電源(AC100V)を切り、受信機内部の電池を取りはずした状態で施工する。活線工事は感電・故障の原因となります。
端子ネジは、確実にしめつける。感電や発熱・故障の原因となります。

■P型2級受信機との接続

●副受信機と受信機を接続するには、「移信用リレーユニット(別売)」が必要です。「移信用リレーユニット(別売)」を受信機に取り付けただけで、副受信機と受信機間の接続を行ってください。受信機の種類によって、適合する「移信用リレーユニット」が異なりますのでご注意ください。(表1参照)

表1 移信用リレーユニット適合品番(□は回線数)

受信機品番	移信用リレーユニット品番
NBP234AK05	NBY429
NBP235AKA0□	NBY430



電線はφ0.9~φ1.6を使用してください。

■その他の受信機の場合は別途お問い合わせください。

